

令和4年度

コロナ禍における取組みについてのアンケート結果報告書

【令和4年度愛媛県介護支援専門員協会調査研究まとめ】

一般社団法人

愛媛県介護支援専門員協会調査研究委員会

1 はじめに

今回のアンケートにご協力いただきありがとうございます。

国内で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者が確認され、はや3年が過ぎました。

新型コロナウイルス発生により、私達の生活は一変し今までに体験したことがないくらい、体力的にも精神的にも大変な日々を過ごされたことと思います。

介護支援専門員にとっては、利用者のサービス利用調整をはじめ、これまで築いてきた支援方法では対応が難しいことも多く、ご利用者やご家族に寄り添い共に歩んでいる介護支援専門員にとっても様々な制限の中、思うような支援ができないことに苦悩や葛藤をされていたことと思います。

この体験をとおして、介護支援専門員自身がどう対応されたのか、今後の参考にしていきたいと思います。

2 調査目的

介護支援専門員のコロナ禍における取組みの状況調査を行い、利用者支援において介護支援専門員が困難を感じた内容について明らかにし、協会員から寄せられた貴重な情報を共有することを目的とする。

3 調査方法

一般社団法人愛媛県介護支援専門員協会会員を調査対象者とし送付し、QRコードか URL から回答を依頼した。調査期間は、令和4年11月初旬から12月18日までとし、68名からの回答があり、15.6%だった。

本調査は、統計的に処理され、その目的以外に使用しない旨の説明を行った上で同意を得ている。

4 調査結果の概要 主な内容を抜粋し分析

各々の理由、意見内容につきまして、ほぼ内容が同じ物は集約させていただいておりますのでご了承ください。

I 基本情報

Q1～Q4 については、集計結果をご参照ください。

II 質問事項について

1 コロナウイルスに感染した時の対応について

① 問1、問4の担当している利用者や家族が新型コロナウイルスの感染者となったかについては、実際に利用者(72.1%)や家族(64.7%)が感染者となりその対応を体験している介護支援専門員が多くなっていると感じ、他人事ではなくなっている。

② 利用者が感染した場合、利用者の家族が感染した場合の対応の仕方と

しては、約 66%の半数以上が「親族に対応依頼」しており、親族の協力なくしては解決できないことが多いことがわかる。対応できない家族や、身寄りのない独居の方の場合の対応については、「代替えサービスの利用」「サービスの利用頻度の検討」で解決している割合が多い。しかし、代替えサービスの調整ができないことがあり、そこが介護支援専門員としては一番の困った問題点となっている。

具体的に、必要性の高いと感じた代替えサービスについて知りたいと思った。

また、「利用者がコロナになり、対応をすることになった家族がパニックになり困った」、「何も対応していない、できなかった」「介護支援専門員が防護服を着て動いた」との回答があった。コロナについての正しい知識や感染予防の知識は、介護支援専門員は常に最新の情報を得ておく必要があると感じた。

- ③ 「介護支援専門員自身が感染者 (11.8%) や濃厚接触者 (19.1%) になった」との回答率はあったが、その場合は、「同事業所内で同僚に動いてもらう」、「電話連絡調整やリモートでの在宅ワーク」で対応しているケースが多かった。コロナ禍では、業務継続計画作成などの事業所内での情報の共有や日々の記録が重要になってくると感じた。

2 コロナウイルス感染に対する対策などについて

- ① 「介護支援専門員自身の感染予防策はとっている」との回答が 98.5%であった。内容としては健康チェック、食事場所を分ける、手洗い・マスクの徹底などが多かった。

自分がいつ感染者になるか分からないので、日々の行動記録は残していくことも重要であると感じた。

- ② 「不安・ストレスを軽減できる体制をとっているか」の問いについては、「とれていない」60.3%との回答であった。「とれている」39.7%と回答であった。内容としては、「防護服やフェイスシールド、手袋、消毒液の支給」「抗原検査キットの支給」などの回答が多かった。この回答から、介護支援専門員がコロナ禍で安心できる対策として感染予防品の支給は必要不可欠であると感じる。

代替えサービスが調整できない場合も、自分自身が動ける体制になること、自分を感染からまもる手段を備えていくことが不安やストレスを軽減していくことが分かった。

3 コロナ禍における業務の方法について

- ① サービス担当者会は書面開催にしても、「特に支障はない」53.3%の回答であったことは、コロナ禍において事業所間での連絡を日頃から密にとることが多くなったことも影響するのではないかと思う。
- ② 「モニタリングは必ず行えている」ことは、介護支援専門員が感染予防対策をとれているからであると思う。コロナについての正しい知識をもち、感染対策を取れることが重要である。
- ③ えひめ福祉ネットワークの存在を知らない、利用したことがないとの

意見が多く、情報の周知が必要かなと感じた。

4 まとめ

新型コロナウイルスに関する対応は日々更新され、事業所によって隔離時期なども様々です。個人情報の取扱いになるため、感染者となった利用者の対応に悩むことは多いと思います。このような相談窓口の一本化ができれば情報を正しく迅速に把握できると思います。

また、新型コロナウイルスは、令和5年春頃から感染症法上の位置づけとして季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行するよう検討を進めているようです。

介護支援専門員は、今後もいろいろな感染症に対する正しい情報と知識を身につけ、ご利用者やそのご家族に寄り添った支援ができるように情報の共有を行っていきたいと思います。

最後にアンケートの回答率が低く、その理由（目的・内容・方法・量等）について検討していきたいと思います。

また、介護支援専門員にとって、意義のあるアンケート内容になるよう、調査研究委員会の活動を行って行きたいと思いますので、今後ともアンケート等のご協力をお願いいたします。